

ごみ・資源物は適切に処理をしていくことが大切です

資源を使って生産したものをごみとして捨て続けていくと、いずれ資源は枯渇してしまいます。また、ごみを処分するための場所がもっと必要になってしまいます。資源を大切に活かし続ける環境にやさしい社会づくりが必要とされています。

環境にやさしい社会を創るキーワード 3R

リデュース【廃棄物の発生を少なくすること】



リデュースの取りくみとして一番大切なことは食べものを粗末にしないよう工夫すること。

私たちの暮らしを便利にする製品は、廃棄される時のことまで考えて、設計や生産工程などを工夫して減量に取り組まれています。買い物で利用する《レジ袋》は、使い捨てられることにより、環境や生態系に悪影響を与えているという事例が報告されています。また、日本は世界全体の食糧援助量（年間約320万ト）の約2倍もの食品が食べられずに廃棄されています。廃棄物は適切に処理をしていくこと。廃棄物そのものの発生を少なくしていくことが重要です。



食べられずに廃棄される食物「食品ロス」が日本では年間約632万トン。日本人全員でおにぎりを毎日約1～2個分捨てている量になります。



海洋に排出されたビニール袋がクジラの体内から発見されています。

リユース【再使用】



ごみとして捨てるのは「もったいない」いらなくなった物でも発想と工夫次第で、役立つ物になります。

リユースは、一度使われたらその後廃棄物になってしまう製品について、再び使用できるよう工夫することによって、使い捨てられる物を減らしていく取り組みです。これまで、使い捨てられる物として、飲食店やイベント等で使用される箸や食器類等を再使用できる物に置き換えたりする取り組みが推進されています。リユースの取り組みによってごみが減り、環境負荷や処理費を低く抑えるメリットがあります。



衣類



本



CD・DVD類

衣類や食器類、本等、まだ使える物に再び使われる機会を与えようと、リユースショップやフリーマーケット等が活用されています。



食器類

リサイクル【再利用】



びんや缶、家電製品などはリサイクルした資源によって生産され社会を支えています。

リサイクルは、廃棄物等を原材料やエネルギー源として有効利用することです。現在、私たちの暮らしを便利にする製品は、作られる時からリサイクルしやすいように設計され、また、再利用された資源を利用して作られています。リサイクルできる物は、分別してリサイクルに回すことで循環しています。リサイクルの取り組みによって、天然資源の使用を抑制することで自然環境の負荷を低減させ自然環境や生態系を守っていくことができます。



収集された可燃ごみは、埋め立てせず、エコセメントにリサイクルします。エコセメントは東京スカイツリーにも利用されています。



使用されたペットボトルをリサイクルした樹脂から再びペットボトルが生産されています。

ごみの減量と資源化は、市民の皆さんの取り組みにより推進されています。

3Rを意識した生活により、自然の循環と私たちの暮らしを調和していけるように、廃棄物の処理の問題から自然環境や生態系を守りながら資源を大切に利用していける循環型社会の実現につなげていきましょう。